

★安倍首相が「自民党は人材の宝庫」と豪語、発定させた第3次安倍改造内閣。改造後の週習もたらずに、「政治とカネ」の問題などを抱える新閣僚がぞろぞろ。政府・与党は、臨時国会開催に応じようとして、一連の内閣の「政治とカネ」問題も「それぞれの大臣が説明している通り、問題ない」(菅官房長官)と聞き直っています。

# 赤旗 読者のひろば

日本共産党  
砺波市委員会  
西尾 英宣  
千代180  
Tel 33-6118

## 【県食健連が農協・市と懇談】

# 食の安全、地域づくり

食健連(国民の食料と健康を守る運動全国連絡会)は、毎年「グリーン・ウェーブ(食糧の波)」＝「食糧自給率の向上、家族的農業経営と地域経済、共同活動を育てる全国一斉共同行動」を展開しています。二十二日、富山県食健連の代表が、となみ野農協と砺波市役所と懇談。



▲となみ野農協にて



▲砺波市役所にて

## 「政府への要請」 に賛同を

食健連では、「いま必要なのは、いのちとくらし、食の安全・安心を確立し、人の住める地域づくりを進めること。私たちは、そのためにも、自治体や農協を含む、地域の多くの団体の協力が欠かせないと考えています。この秋、私たちは、このような合意づくりをめざして、全国各地の方々との対話活動を進めています」として以下の四項目を申し入れました。

- ① 「政府への要請」(下囲み)への賛同署名への協力を。
  - ② 国連も認める持続可能な家族的農業経営を守るなど、地域の資源や農林漁業を活かし、協同の力で地域農業と地域経済の発展、再生
  - ③ 「TPP反対、地域の協同を広げ地域経済と家族的農業を守る学習会」「地域の農林漁業の発展をめざす集い(シンポジウム)」などに協力を。
  - ④ 「TPP交渉『大筋合意』は撤回し、調印せず撤退することを求める請願」署名に協力を。
- となみ野農協では佐野組合長が応対。「協力はするが」としつつ、「砺波市だけでも昨年一九三軒が離農している」とも同席しました。
- 懇談には多田前市議員も同席しました。

**「政府への要請」**

- 一、食の安全・安心、安定供給のため、国連もすすめている家族農業を大切にしたい農政を確立し、食料自給率の向上をめざすこと。農業を企業の儲けのために明け渡す「農業改革」はやめること。
- 二、国会決議を踏みにじり、農林漁業だけでなく、地域経済や雇用、くらしや医療をも壊し、大震災からの復興の障害にもなる、TPP(環太平洋経済連携協定)「大筋合意」は撤回すること。
- 三、食品検査体制や食品表示制度をはじめ、食品の安全行政を強化すること。

★日本共産党、民主党、維新の党、社民党、生活の党の5党などが21日、憲法93条にもつぎ、臨時国会召集を要求。日本共産党の穀田議員は「国民生活」に影響を及ぼす問題が起きていなくても国会を閉じつとしないのは、国政問題として、責任、資格が問われる」と強調。

【ただのつぎやき】

みから学ぶところ大です。

16日 地方議員研修会

県内の議員・候補者など二十人が参加。「戦争法廃止の国民連合政府」提案のうけとめと今後のたたかひについて討論。ひづめ裕子県議からは「地方創生」「あの風とやま鉄道」「学童保育」「三十五人学級」などの報告。新川地区から介護総合事業のとりくみの報告、呉西地区からは議会改革の報告をそれぞれうけ議論しました。県と市町村の連携の大切さや、他のまちのとりく

18日 戦争法のたたかいと日本共産党を語るついで

青年代表のあいさつが感動的でした。「…隣の人と手をつないでみましよう。つないだ手に、武器を持つことができません。手をつなぐことで平和をつくることができます」と参加者をまきこみ、「戦争には反対だ!」と元気に声をあげました。



▲みんなで手をつないで、「戦争には反対だ!」

井上さとし参議は、「五月三日、憲法記念日の三万人集会のとき、民主党は野党で手をつなぐこともためらった。その後、大きなたたかひのなかで、野党が手をしっかりとつなぐことができたことは世論と運動の力」と強調。「富山市での集会・デモで社民党の又市議員と一緒に横断幕をもつことになると思わなかった」とも。

会場とのやりとりもあり、「民主党との合意は簡単にはできないのでは?」の質問に井上氏は「民主党との関係はハードルが高いと思うが、『戦争法廃止



▲「マイナンバーと消費税」報告する水谷氏

で野党はまとまってほしい」という草の根の声が大きく広がれば乗り越えられる」とこたえました。

消費税をなくす富山県の会第22回総会

富山県の会は一九九〇年九月に結成、以来二十五年! 継続は力です。代表世話人の水谷弁護士による、「マイナンバー制度と消費税」についての報告もありました。

22日 県食健連の農協・自治体訪問に同席(一面)

(何でもお気軽にご連絡・ご相談ください・多田携帯 090-3369-8216)

【続きんの日記】

21日 チューリップ球根の植え込みが一気に終了しました

植え付け面積は昨年と同じですが、異常とも思える晴天続きで、ちよつと無理かななどとも思った段取りを余裕さえ感じながらこなしていくことができました。

「中干し」をちゃんとしていなかったので稲刈り直後の田んぼは物凄く柔らかく、コンバインのキャタビラの跡で深くえぐられたところもあって本場にチューリップ畑にできるんだらうかと心配だったのですが、奇跡かと思われるほど乾いたサラサラの土の植えこむことができました。秋の陽ざしは夏程パワーが無いので、ずぶずぶに染みた水まで蒸発させることは困難なのですが、今年はずつかり干せてくれました。土が乾いた砂のようになって、畝にはじき上げたものがザラッと流れるように崩れていくのがちよつと難では



写真は、チューリップ球根栽培の作業負担やコスト軽減を図ろうと、県花き球根農協が農機メーカーなどと開発したネット栽培機: 収量や生産者増が期待されます。

ありました。

この晴天はさらに続きそうです。十年まえの自分だったら、もう一枚の田んぼと種球を準備して栽培を拡張してやろうかと考えたかもしれない。あるいは晴天続きで地温が高く、病気に感染しないどころかと心配でたまらなかつたかもしれない。しかし今の自分は「おっ、これまた一つ片付いたぞ」とすつかり満足してぐつすり眠れそうです・・・?